

武蔵野市の将来を考える市民会議 傍聴者アンケート  
第3回 集計結果

傍聴者17名のうちアンケートに回答したのは8名

①はじめに、このアンケートに回答される方についてお尋ねします。

該当する部分を○で囲んでください。

1	市内在住	6人	吉祥寺本町、緑町、境南町
2	市内在勤	1人	
3	市内在学	0人	
4	その他	1人	横浜市

性別

男性	4人
女性	4人

年齢

10歳代	0人	50歳代	4人
20歳代	1人	60歳代	0人
30歳代	0人	70歳代	2人
40歳代	1人	80歳以上	0人

②今回の市民会議を何でお知りになりましたか？ (複数回答あり)

1	市報	2人	
2	市ホームページ	1人	
3	友人知人の紹介	5人	
4	その他	2人	週刊きちじょうじ、前回傍聴しました

③今回の市民会議で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の声の縮図として有益な話し合いだと思う。</li> <li>・コミュニティと子育ての関係についての西川さんの発言には共感を持った。</li> <li>・地域の再生について。</li> <li>・人と人がつながるためには場所が必要。複合施設であることで多様な人が集まり交流が生まれる。大きな施設は必要ではない。峠の茶屋的な場所のほうが人と人がつながる場所だと思う。</li> <li>・コミセン等を通じて市民参加の形態、場所につき、多様な意見が出たのは有意義と思えた。これを長計にどのように反映するのか？</li> <li>・10人で各々の発言時間が確保されていることは、四期調計に比べいいこと。</li> </ul>
--

↓裏面に続く↓

↓表面の続き↓

- ・武蔵野市の人口推計（たる形が常に続くという点）
- ・コミュニティ構想について（個人の意志に任せるか？ある程度の力をもって巻きこむべきか？）→非常に難しい問題だと感じます。
- ・或る委員の「生まれつきの障がい者以外は働け」という暴言？（日本で今起きている貧困問題を全く理解していない）には驚きました。（委員は皆常識をもってるとばかり思っていました。）福祉についても、もっと勉強して頂きたい。この方は、社会で皆が最低生活をおくる事が出来るようになってはじめて国力もつくということをお聞きしたいのか…。→これは私の偏見、独断でしょうか。
- ・他に、別紙1～別紙4のご意見もありました。（長文のため、別添とする）

④その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。

- ・しかし、それにしてもこの市民会議は全体の計画づくりの中で、どういう位置付けであり、どういう役割を果たすのだろうか。
- ・地域はつねに人と人がつながる場所でありたい。
- ・そのためにはかつての個をつぶすつながりではなく、個性を輝かせるつながりをつくるのがこれから必要。それこそがセーフティネットとなりえる。そんな社会をつくる核となるのがコミセンだと思う。コミセンの役割は地域での課題解決の実行の主体者ではなく、それを支え、つなげる役割を果たしてもらいたい。
- ・四期長計調整計画の市民会議で約100名の市民が参加し、学習した結果は今回の長計作成に活かされるのか？前回の市民、市職員の努力、エネルギーは無駄だったのか？
- ・紙コップ、PETボトルは止めてください。ごみ総合対策課の会合はポットと湯のみ or My Cup です。
- ・吉祥寺（武蔵野市）の“らしさ”や文化の特徴として、健康な世代循環（お話に出た流動性）もあるのではと考えておりましたので、やはりと納得いたしました。
- ・吉祥寺に落ち着きたい、世帯として定着したいと思っている若者は、潜在的に（同じ若者として）非常に多いと感じます。武蔵野市の成熟に比例して、人気も高まり、家賃もますます高騰すると思いますので、収入に不安のある若い世代を受け入れるサポートも必要になってくるかと思えます。（今後特に）
- ・大変学ぶことが多く、参加（傍聴）できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。
- ・次回以降、前回分までの資料も一緒にいただくと嬉しいです。
- ・I委員のおっしゃることは過激すぎると思いますが・・・“一部”一理あるなあと思えました。
- ・市民会議の実際に果たす役割を市の側はどう考えていらっしゃるのか、申し訳ありませんが、よくわかりませんでした。例えば、このような大きなテーマをわずか10時間の議論で、個別計画とどう結びつけていくのか、など。
- ・他に、別紙1～別紙4のご意見もありました。（長文のため、別添とする）

ご協力ありがとうございました。

1. 40年前のコミュニティ構想は、その当時の状況において、画期的で高い理想を掲げたものだったと思う。その後、10年目、20年目、30年目に、見直し、再定義の議論が行なわれなかったのはなぜか？ 時代の流れに即したものにブラッシュアップされなかったのはなぜか？ 市長は、議会は、コミュニティ構想をどのように位置付けていたのだろうか？ 現実には、この構想のもとに各コミセンで「3歩進んで2歩下がる」みたいな取り組みが進んでいたのに、閉鎖的になり、トラブル続出していったのになあ。  
 刈森氏は「原則を破る点もある」と認められた。誰が破ったのか？ 市長？ 議会？

2. (武蔵野だけでなく国全体を取り組むべき課題だが)

運転免許、パスポートなど権利の行使と引き換えに、防災防犯・美化など皆が利たがらないけど不可欠な地域活動を必須条件にする。権利だけ主張できない仕組みを作る。

3. 既存の地域活動に「新たに人を引きこむ」という発想には限界がある。(発言にあたり)「頭を下げてくれない」若い世代は「何だかウルサイ姑さんばかりいる所に行きたくない」「手足とこき使われるのはイヤ」。「こっちに来てくなく」「あなたたちのやりたいことを聞かせて。一緒にやりましょう。ノウハウの蓄積はいっぱいあるよ」と言えるように、世代おのあのに意識改革するよう、呼びかけが必要。  
 (嫁世代も姑世代も)

## 武蔵野市の将来を考える市民会議(第3回)に関する傍聴意見

境南町在住

委員の皆様、熱心な意見交換、ありがとうございます。

担当職員の皆様、会議の準備と当日の進行、御苦労様です。

今回も、前回に引き続き、意見を述べさせていただきたいと思っております。

## 1. 「リスク回避」における福祉的な視点

資料としてコミュニティ構想が示されたこともあり、市民会議の話し合いは地域のコミュニティについての意見交換が殆んどで、たよりに思います。しかし「リスク回避」には福祉的な視点が欠かれません。

因、という人を対象とする分野は、高齢者支援・子育て支援・障害者支援・男女共同参画(女性支援)等の他に、外国人や非就労者、ホムレスの人たちも対象になります。この各々の分野で「<sup>①</sup>深刻に困っている人の支援」、「<sup>②</sup>一般的支援」、「<sup>③</sup>共助の取組みの支援」という組み合わせを考えたみました。例えば、先日話題には、子育ての分野であれば、①には、いじめ・不登校・障害(病弱)・虐待等のケース、②には、待機児童解消・放課後対策・学習支援・学校サポート等のケース、③には、子育て自助グループや子育て支援活動支援等のケースが考えられると思っております。

今回の長期計画の課題になるであろう共助や協働の活性化に関して、一つのキーワードは「小規模分散」という考え方がないかと思っております。市民会議の中でも「居場所」という言葉で話されたと思いますが、身近な地域に小さなサポートがたくたくあるような形が良いのではないかと思っております。「テレシオンハウス」の考え方を発展させて、少しもじ、と言えば、「ワンシオンサポート」事業が地域に分散し、それがネットワークされていることが、次世代共助の一つのモデルになるのではないか、と私は考えたいです。

## 2. まちがくりについて - 駅圏とまちをつなぐ

武蔵野市の将来像について、全市的に考えるか、コミュニティ学校区単位で考えるか、いろいろ考え方があろうと思いますが、ここでは「駅圏」で考えてみることに、とれを「つなぐ」という視点について考えてみます(駅圏という考え方は長期計画や都市マスタープランでも用いられています)。

私は境南町在住ですが、この境は市内で最も外国人居住者が多いエリアです。武

武蔵野国際交流協会もあります。またまた市民活動が後継者不足という課題を抱えていますか。国際協力・交流は今でも若者たちを引まつけるテーマですし、亜細亜大学には外国人留学生も多く在籍しています。このエリアを「国際交流のまち」として活性化のビジョンをつくるとはいいでしょうか。また、境南町には文化創造・発信の拠点として武蔵野アトリスが完成しますからこのエリアは「市民文化の創造と武蔵野の文化の発信」というビジョンでも、とまちづくりに取り組むこともできます。このようにまちのビジョンをもつことは意味があります。吉祥寺エリアは日本有数の都市文化の拠点です。また、中央エリアは市役所をはじめとする公的施設・機関や総合体育館や市民文化会館などが集まる場所です。これらの特色あるエリアの間を市民が自在に往来できることが今後の武蔵野のまちとしての発展に寄与すると同時に、市民とこの結びつきを強めることにもつながるかと考えます。具体的には、東部の幹線道路に自転車レーンをつくること、ムバスの運行ルートを変えて、吉祥寺と中央、境と中央の各エリアのつながりを良くすること等が考えられます。

### 3. 市の職員について

市の職員に関しても、少し提言したいと思います。

この数年、市の分限停職者数は増加しています。また、仕事にやりがいを感じられない人の割合が、特定の職層で高くなっています（人事課による昨年度の職員意識調査より）。原因は一概には言えませんが、労働時間の課題、役割分担の課題、メンタルヘルスの課題等が考えられます。労働時間については短時間労働やフレックスタイムの導入について検討するのがよいと思います。メンタルヘルスについては民間で導入された始めたメンター制（特定の先輩が相談をうける役割をとる仕組み）を検討するのがよいのではないかと考えます。

また、職員のモチベーションを高めるために、入職して一定年数（例之は15年位）経過後、その人のやりがい分野に配属される仕組み、また定年前か定年後にもその人の希望する分野で仕事ができる仕組みがつけられないでしょうか。そうすれば、またまた仕事を経験して、一人ひとりのモチベーションを維持し、力を発揮してもらうことが一定程度できるのではないかと考えます。

このように、職員のワーク・ライフ・バランスをすすめ、モチベーション高く仕事をしていただく状況をつくりつつ、「市民と市職員の対話を促進することが大切だ」と思います。現在行なわれている武蔵野アトリス市民活動フロアのワークショップ等では、市民と市職員が同じテーブルについて話し合っています。このような経験の積み重ねがお互いの理解を深め、それからの協働のまちづくりの至る所に欠かせないことだと考えます。

長くなりましたが、お読みいただきありがとうございます。どうぞありがとうございました。ご検討いただきありがとうございます。

## 武蔵野市の将来を考える市民会議（第3回）についての傍聴意見

平成22年8月26日

吉祥寺本町在住

1、市民会議では、「地域の活力」というテーマで、主にコミセンの現状と今後について多く語られたように思います。最近市民になられた方から、長年コミセンに関わってこられた方まで、さまざまな意見が出されたことは、なるべく多くの市民のありのままの意見を計画に反映させるという点で有益であったと思いますが、現在の武蔵野市で、地域の活力の向上が何故・どのように必要なのかについての共通理解が十分でないため、いささかちぐはぐな議論になったかなと感じました。そこで、私なりの意見を申し上げ、この議論に参加したいと思います。

2、議論の中でも出ていましたが、昨今の高齢者の所在不明問題に象徴される「無縁社会」問題は、配布された資料で、武蔵野市の平均世帯人員が1.92人と2人を割っていることから見ても、私たちの市にも確実に訪れてきています。武蔵野市の世帯数約7万のうち、一人暮らしの世帯が約半分の3万5000。このうち高齢者の一人暮らしは約6000ということですから、一人暮らし世帯はお年寄りに限らないわけで、都市データパックによれば、武蔵野市は、単独世帯比率も未婚者比率も全国780市中で最も高い町になっています。この他にも、高齢者の夫婦のみの世帯が5000、一人親と子どもの世帯が4000。この結果、夫婦が揃い、子どもと暮らす「理想型」世帯は1万6000、全市の22%でしかありません。議論の中で、「よいコミュニティを作る核は、よい家族作りである」との意見が出されていましたが、全くその通りなのですが、人々の暮らしを支える核としての「よい家族」は崩壊しつつあります。それが、武蔵野市を先端とする日本の現状なのだということから議論を始めるべきでしょう。

このような武蔵野市の家族構成を見ただけで、健康で仕事があるうちはともかく、何らかの障害にぶつかったときには、多くの場合、「家族」ではその暮らしを支えられず、何らかの社会の力が手を差し伸べなければ、たちまちその生活が困難に陥ってしまうことは明らかです。

なお、議論の中には、弱者に対する救済を行政の課題とするべきではないとされるものがありましたが、この議論を突き詰めれば、「同じ市民だからといって同じ地域と一緒に暮らすのではなく、恵まれた資産家は張り巡らしたゲートの中で、危険に満ちた外

部と隔絶して暮らす」という社会像を構想することになるのでしょうか。少なくとも私はそんな社会には住みたくありません。

3、「手を差し伸べる社会の力」の一つとして、「地域の力」がクローズアップされてきました。武蔵野市でも何年か前から、「災害時要援護者支援事業」として、町の人たちが一人暮らしなどで支え手のない方々の家を回って、実情を把握し、その方のご意見も聞いて、災害時の援護の手立てを考えていくという試みが始まっています。まことに立派な試みですが、町でその事業の中心を担っている方にお聞きすると、その大変さ、行政の支援が足りないことなどへの苦情とともに、「今80歳、90歳の方たちを、そろそろ後期高齢者になる私たちがお助けしようとして、はっと後ろを見ると誰もいない。これじゃ私たちが動けなくなったとき誰が助けてくれるの」と言われてしまいます。この実情は、コミセンでも地域社協でも「後継者がいない」、「何をするにも私たちがしなければならない」という嘆きとして、共通しています。

確かに、社会が若く、余力があるときであれば、改めて「地域の力が必要だ」と言う必要はないのかもしれませんが。その意味では、必要性和困難さは表裏一体のものと言えるのでしょうか。それどころか、アメリカの有名な社会学者ロバート・パットナムの著書「孤独なボウリング」（柏書房刊）によれば、1970年代以降アメリカ社会においてもコミュニティの崩壊が急速に進んでいるということです。つまり、この「地域における共同性の崩壊」という状況は、単に武蔵野市や日本だけで見られるものではなく、世界的な共通性を持っているということらしいのです。

4、実は、同じように「地域の力」と言っても、異なる二つの立場から議論されているように思われます。一つは、行政の下請けとして市民をあてにするものです。市民会議の中でも、「町内会的なものの復活」「ある程度の義務化」などという議論がありました。主張された方の真意がどこにあるかは明確ではありませんが、行政機構の一部に市民の地域組織を組み込んでいくという発想につながるものを感じました。事務局サイドからも、「福祉や防災、子育てなどの地域での受け皿を一本化すれば、住民サービスがより提供しやすい」という発言がありましたが、市民を使った効率的な行政サービスという立場からのもののように思われます。

もう一つは、地域の力を住民自治の力ととらえるものです。武蔵野市におけるコミュニティ構想は、明らかにコミュニティ＝住民自治とし、「成熟した市民にはコミュニティセンターという器さえ提供すれば、自分で地域における自治を進めて行くであろう」

という考え方から、自主三原則が提唱され、コミセンの運営に行政は関与させないとしてきました。わかりやすい議論をするためにあえて断定的に申し上げれば、武蔵野市のコミセンの40年の歴史は、ともかくもコミセンの運営を行政の力に頼らず市民でやり抜いてきた奮闘の歴史と言うことは出来ますが、いくつかの限られたコミセン以外は、その運営を通じて地域の自治を推し進める活動を行うことはできませんでした。その結果、コミセン全体としては、現在客観的に求められている地域の力を担う主体にはなりえていないと言わざるをえません。

これまた乱暴に言えば、行政の側も、コミセンには干渉しないとした結果として、コミセンをあてにせず、豊かな財政力をもって、行政としてそれぞれの住民サービスを独自に展開してきたと言えます。ところが、昨今は、社会の変化による行政需要の増大と財政の困難さに直面し、現実に存在するコミセンを地域の力の担い手とするためにはどうすればいいのかと考え出してきたといえるのではないのでしょうか。

5、それでは、コミセンをその地域の住民を義務的に構成員とし、その中から役員を選出させて、地域における行政機関として機能させるなどということが、本当にうまくいくのでしょうか。今の財政事情から言って、地域の末端で行政の下請けを担う人たちに、その適正な給与を保障するなどということはありません。また、かつての町内会ならば、資力のある地域の有力者が、この末端の権力機関によって国策を担ったのですが、その結果、町内会に、国民の意思が反映される余地はなく、ひたすら誤った戦争を突き進むための国民統制を果たしたのです。状況は違いますが、現在、崩壊しようとする地域の共同性を、上からの統制で結束させるなどということができるはずがありません。

ということになれば、コミュニティの再生のための方策は、もう一つの立場、住民自治の拡充・発展以外にはないということになります。しかし、先ほど世界史的課題だと申し上げた通り、その方策がそれほど簡単に見いだせるとは思っていませんが、ここではまず原理的な考え方を、次に具体的な手立てを2つ提案してみようと思います。

まず、原理的な考え方ですが、このコミュニティの再生という課題は、決して救済する弱者のために行うものなのではなく、地域住民全体の利益のために行うものであることをきちんと確認しなければなりません。このことは、ソーシャルキャピタル理論として、先ほど紹介したロバート・パットナムの別著「哲学する民主主義」(N T T出版刊)でも詳述されていますが、そんな難しい議論を読まなくても、困ったときにみんなに助けてもらえる安心できる地域の方が、自分さえよければいいという猜疑心いっばいの地



域よりもずっと住みやすいことは明らかです。

その上で、地域のために働くのは、他の誰かに指示されたからではなく、自分たち自身の議論と決定によってであること、まさに自治に基づくものであることを明確にしなければなりません。とりわけ行政との関係で、市民がどのような権限をどのような手続きの上に持つのかを明確にしておかなければなりません。財政権限もその中に含まれるでしょう。私は、このような、行政と市民、さらには議会、企業、NPOなどが、それぞれ、どのような権限と責任を負うのかの関係をきちんとしておかなければならないと考えています。多少の皮肉を込めて言えば、市民が多大な労力をかけて行政と事業を協働したのに、その評価も総括も行われないうまま、行政の次の担当者の意見で、まるで事業のやり方が変わってしまうのであれば、市民は二度と行政との協働に力を注ぐことはないでしょう。このように、自治体における協働の目的・理念と、具体的なルールを定めるのが自治基本条例であり、地域の再生に止まらず、行政が市民との協働を真面目に考えるのであれば、その制定は必須のものです。

次に、具体的な提案ですが、1つ目は、すでに市民会議の議論の中でも出されていましたが、各丁目毎くらいに（全市で51か所）簡便なスペースを確保し、お年寄りや子育て中のお母さんなどが、気軽に身を寄せ合い、互いに力になり合える「居場所」を作ることです。地域の方で手を差し伸べるべき対象を、具体的に浮かび上がらせることにより、働き手自身を作り出していくことが出来るでしょう。この実践は、すでにいくつかの地域社協で始められていると聞いています。

2つ目は、自主3原則との関係で行われてこなかったのかもしれませんが、市の職員の中に各地域の担当チームをつくり、地域の実情を把握したうえで、その専門家が、コミセンや地域社協の相談相手となり、その活動をサポートすることです。地域における自治の主体が市民であることは明確ですが、その担い手を励まし、支え、広く作り出す仕事を行政自体にも担ってもらおうということです。

6、ところどころ言わずもがなのことまで申し上げたかもしれませんが、私の本意は、武蔵野市政史上始めて市民による体系的な市政評価・批判を行い、これからの市政に必要な理念が「市民の支えられ感」だとした前回の調整計画の成果を、今回の長期計画の策定においても引き継ぎ、さらに発展させていただきたいというところにあります。

宜しく申し上げます。

以上

平成 22 年 9 月 13 日

武蔵野市の将来を考える市民会議

委員の皆様

事務局の皆様

武蔵野市緑町在住

先日は第 3 回会議お疲れ様でした。

会議も 3 回目を迎え、様々な論点が出てきたかと感じています。残すところあと 2 回ということで折り返し点を迎えたのですが、まだまだ厳しい暑さが続いておりますので、お体を大切になさりつつ、最後までよろしく願いいたします。

さて、会議を傍聴しての感想をお送りいたしますので、ご査収のほどよろしくお願いいたします。

#### ◆会議の進め方について

気になったのは、「報告書」の扱われ方です。

第 6 期コミュニティ市民委員会の報告書を取り上げて、「提言であり第 5 期基本構想・長期計画へどう反映させるか」、といったご発言が事務局よりあったかと思いますが、こういった報告書は他にどれ程あるのでしょうか？

すでに提言されているものを、あえてこの市民会議で取り扱う必要があるのでしょうか？正式な策定委員会の中で、どれほどの内容を反映させるか、もしくは優先順位をつけるか？といった議論は必要ですが、すでに提言されているものを極めて限られたこの会議で再議論することは理にかなっていないと思います。

もちろん、委員の皆様のご関心として議論なさることに異議を唱えるつもりはありませんが、先ず事務局が第 5 期基本構想・長期計画への提言書を全て委員の皆様にも明らかにすべきと感じました。

#### ◆コミュニティについて

私自身、第 6 期コミュニティ市民会議に委員として参加しましたが、先日の“将来を考える市民会議”であったような議論は既になされ、(特にコミュニティとコミュニティ協議会とコミュニティセンターは別のものとして、丁寧に時間をかけ) それらをまとめて報告書としたものです。その中では、コミュニティセンターの防災拠点としての役割であるとか、昨年度の市長選挙でだされた新コミュニティ構想の作成についても意見を投げかけました。

また、議論の中では、コミュニティセンターが子どもにとって使いづらい施設となっていることや、PTAとのつながりの希薄化、同じ方々がメンバーとなっている青少

協・市民社協・コミュニティ協議会を一体化させ、新たに組織だての方が良いのでは？という意見も出されていきました。それぞれ各地域に地区組織があるわけですし、お互いに密接にかかわる組織とその活動内容ですから、検討の価値はあるかと思えます。ご参考までにお知らせしておきます。

◆市役所内部で問題と感じている事象について

事務局の方から「(会議の議論同様)市役所内部でも検討している」「市役所としても問題と感じている」といったご発言があったかと思えます。以前もお伝えしましたが、資料にあったキーワードの中で市として問題意識を抱えている項目(要は委員の皆様と共通認識となっている項目)は他に何がありますでしょうか？

それらも明らかにしていただき、あらためて市民の視点での解決方法等を提示することも、この将来を考える市民会議で出来ることではないでしょうか？

検討内容を伝えることなく「市役所内部でも検討している」で終わってしまっただけでは、この市民会議の意義が分かりませんし、市役所の腹のうちは明らかにすること無く、結果、すべてが市役所主導で進められていくかのような印象を持ちました。

◆策定委員の選出について

残すところあと2回の会議となり、そろそろ策定委員2名の選出を皆様も事務局の方々も意識されていることと思えます。その選出方法や選出過程、選出理由等はいっ話し合われるのでしょうか？

もちろん、公開で行われると思っているのですが、別途機会を設けるものなのか？また、この市民会議と策定委員会との関係を考える上で、気になりましたのでお知らせいたします。

以上、なるべく「短く」と思い書きましたので、趣旨等不明瞭な点もあるかと思えますが、ご容赦ください。